

# 美々川・ウトナイ湖における自然再生の取り組み

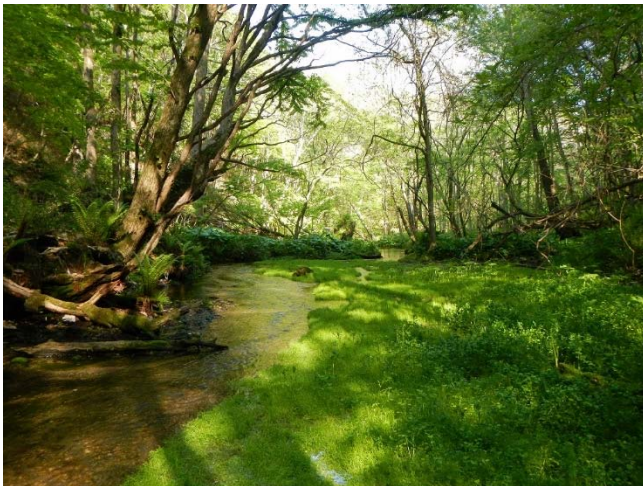
## Nature Restoration in the Bibi River and Utonai Lake

河川・海岸グループ 研究員 川田 貴章  
 企画グループ グループ長 柏木 才助  
 河川・海岸グループ 研究員 内藤 太輔  
 生態系グループ 次 長 清水 俊夫

### 1. はじめに

北海道の千歳市と苫小牧市を流れる美々川は、北海道を代表する工業都市の近郊にありながら、自然本来の姿を残す貴重な自然環境を有している。

また、美々川が流入するウトナイ湖は、ラムサール条約に登録された世界的に貴重な水鳥の中継地、越冬地であり、これまでにウトナイ湖周辺で観察された鳥類は 270 種を越え、国内で記録されている鳥類の約半数が確認されている。



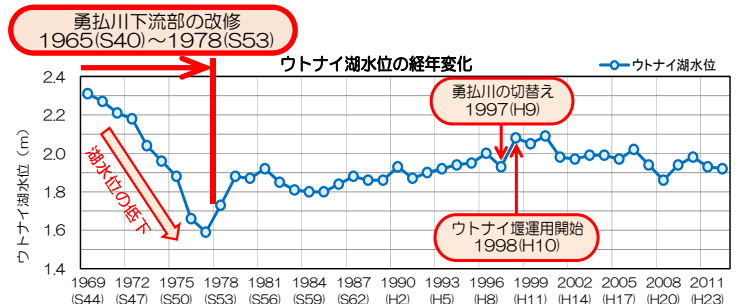
写真－1 美々川源流部の状況

一見すると自然豊かな美々川・ウトナイ湖も、近年の調査・研究により、美々川源流部湧水量減少と湧水水質の悪化、ウトナイ湖周辺の乾燥化等、自然環境の変化が確認されている。北海道室蘭建設管理部では、こうした貴重な自然環境の保全・再生に向けて平成 13 年度より美々川・ウトナイ湖の自然再生の取り組みを進めている。平成 27 年度は「当面の具体的な実施計画」である美々川自然再生アクションプログラム第 2 フェーズの初年度にあたる。本稿では美々川・ウトナイ湖の課題と、平成 27 年度の取り組みについて報告する。

### 2. 美々川・ウトナイ湖の課題と取り組み

ウトナイ湖を含む勇払川流域では洪水対策や有効な土地利用を図るため、昭和 39 年より勇払川の河川改修が進められてきた。ウトナイ湖下流の工事は昭和 43 年から同 53 年まで行われたが、これら事業に伴いウトナイ湖の水位は 2.3m から 1.6m まで低下した。この結果、徐々に湖周辺の乾燥化が進み、ハンノキ林の増加、高径湿生草原やフェン（ヨシやスゲ類が優占する湿原植生）の減少が見られている。

ウトナイ湖周辺の乾燥化に対しては、湖水位を上昇させフェンの生育適地を創出することを目指しており、平成 27 年 12 月にはウトナイ湖の湖水位を 10cm 上昇させるため、ウトナイ湖流出地点に設置されている「ウトナイ堰（可動堰）」の操作を行った。これにより特にウトナイ湖北西岸の湿潤度を増すことを想定している。



図－1 ウトナイ湖水位の経年変化

平成 27 年度は、湖水位上昇による植生に対する効果・影響を把握する事前調査として堰の操作前の、ハンノキ林などを中心に地下水・植生の状態を調査した。

調査の結果、湖岸に近い A 調査区から順に土壤水分が高く、ハンノキの幹生長量も小さい傾向がみられた。今後得られた事前調査結果をもとに湖水位上昇後各調査区の傾向が、どの程度変化していくかを観察し、水位上昇によりフェンの生育に適した環境が増加していくかどうか、事前に想定していた植生の変化と照らし確認していく予定である。

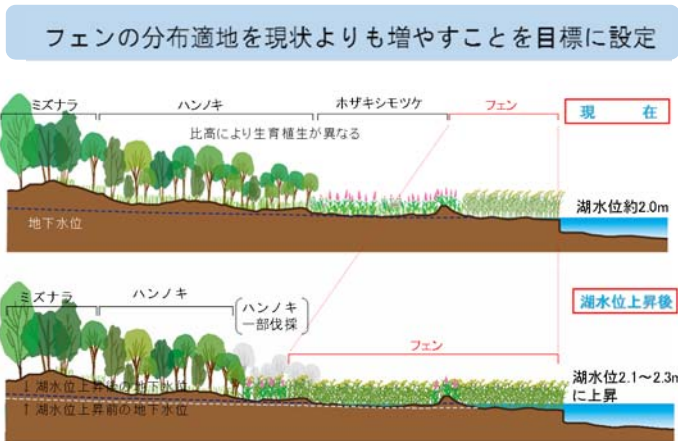


図-2 湖水位上昇による植生分布適地変化イメージ



図-3 ウトナイ湖湖岸植生調査位置と植生分布

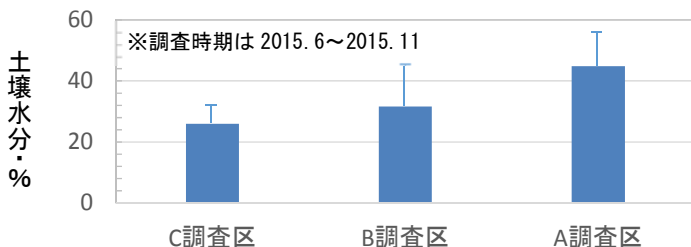


図-4 調査区毎の土壌水分

### 3. 地域連携

美々川自然再生計画では、「豊かな自然と共生する地域社会の形成」に向けて、①情報発信、②地域の自然、生き物への関心と親しみの向上、③魅力ある地域資源の現状と課題の共有化、④流域全体のネットワークの形成の4つの視点から、地域連携を推進している。

平成27年度は地元との協働取り組みに向けて、中学校での環境学習、地元自治体との湖水位上昇等の情報共有を行った。

環境学習では将来的に自然環境の保全・再生の中核を担う若年層への知識普及、啓発を目的とし、学識者の協力も得て次のメニューで環境学習を実施した。

- ・美々川源頭部での採水、教室にて水質検査（パック

テスト)の実施

- ・ウトナイ湖でのハンノキ着葉量調査の実施
- ・湖とその周囲の植物群落の変遷に関する講義、湿地環境に棲む鳥に関する講義

環境学習活動には教員の方々にも参加いただき、美々川の現状を知っていただくとともに、自然再生の一部を体験していただいた。

情報発信としては、前述の環境学習をはじめとする地域活動や、美々川・ウトナイ湖の自然環境の保全・再生の取り組みをホームページにて公開した。

さらに、美々川・ウトナイ湖の魅力情報を発信する活動の一環として「みどころマップ」の原案を検討し、あわせて現地でのビューポイント選定など景観検討を行った。



写真-2 駒里中学校環境学習の様子

### 4. おわりに

美々川自然再生計画の主要施策は「湧水環境の保全・再生」、「流水環境の保全・再生（クサヨシの除去）」、「湿地環境の保全・再生（ウトナイ湖周辺の湿地環境の創出）」となっている。この内、ウトナイ湖岸の湿地環境の保全・再生は、今年度実施した堰運用方法の変更によって、次年度以降、湖岸の湿潤状態が変化していくことが想定される。急激な環境変化は高径湿生草原やフェンに対し意図した効果をもたらさない場合もあることから、ウトナイ湖水位の上昇は段階的に効果を確認しながら行うこととしており、美々川自然再生アクションプログラムの第2フェーズで水位上昇による効果を評価していくこととしている。

なお、ウトナイ堰の運用変更や、自然再生の取り組みには地元の理解、参画が重要であることから、引き続き流域の現状と課題を共有し、地域連携に資する取り組みを実施する予定である。